

普通の暮らしをお約束する10か条

グループホームぼだいじの取り組み

1:地域の方との交流をもつ

毎日のスクールガード(子供達の通学の見守り)の取り組みを通して、自然と地域の方との交流や、お互いのことを知り合える機会にもなっています。また、月に一度の地域サロン(地域の人々の集い)や季節ごとの行事にも参加させて頂き、社会性を続けて持って頂ける支援をしています。



2:支えあい共に暮らす

入居者、介護者という関係でなく、料理と一緒に作り、目の前にいきいきした食材があり、香りや音が食堂に広がり、お年寄りがヤカンにお湯が沸くのを待つ間、入居者間、職員との間に、いろいろな会話が生まれるという関係性を大事にしています。入居者同士の助け合いを大切にしながら職員もさりげなく援助し、共に暮らしていけるよう支援しています。



3:メリハリのある生活(当たり前な生活をおくる)

家におられた時と同じ様な生活をおくっていただける支援(買物、料理、洗濯等)や出かけたいところへ出かけて、会いたい方に会って頂けるようにしています。

また、起きたい時に起き、休みたいときには休んでいただけ、過ごしたいと思われるところで過ごしていただけるよう、見守りながら支援しています。

身体的に弱ってこられても可能な限り、朝は普段の服に着替えて頂きリビングで交流の機会を持ち、生活や他の方の声を感じて頂ける支援をしています。

散歩、畑や花壇での作業、編み物、おやつ作り等それぞれの方の趣味や得意とされているものに応じて、対応しています。

一年に一度一泊旅行を行っています。入居者の方、ご家族、職員と一緒にわいわいお酒を飲みながら宴会やカラオケを楽しんで頂いています。



「グループホームぼだいじ」は、認知症が重度化しても、人間としての尊厳や権利を損なわず、最後までその人らしいあり方を目指します。

私たちは、10か条を遂行することにより、「普通の暮らしをお過ごしいただけるように」努めます。

4:ゆっくり座って会話をする

「認知症」の症状の理解をしたらうでの関わりを大切にし、急いでいても走ったり、不必要に大きい音は立てないように心がけ、話す時は座って話すことを大切にしています。



5:三つの鍵を掛けない

物理的：玄関の鍵はかけません。自由に外に出られます
 ぐすり：薬に頼りません
 ことば：禁止・指示の言葉は使いません

ご本人の命に関わる緊急な事態を除いて、転倒などの事故防止のために、ご入居者様の自由を制限する行為は行いません。

6:穏やかにゆっくりとした時間の流れる生活環境

木造平屋の数寄屋造りになっており、居室以外でもリビングや小上がりなど過ごしていただける場所があり、ゆったりと生活していただくことができます。廊下は二人がすれ違うことができる幅で広すぎず狭すぎず施設感が出ないようにしており、あえて余裕のスペースを作ることでプライバシーに配慮した造りとなっています。



7:家庭的な温かい食事の提供

可能な限りその場で作って食べることを大切にしています。また、嗜好にあわせた食事の提供(作った梅干や自ら購入されたものを好きなときに取り出せる等)や入居者の方に応じた食事形態での提供を行っています。



8:好きな時間に入浴できる(ゆっくりのんびり入る事が出来るお風呂がある)

午前中から夜まで、希望される時に入っています。昔懐かしい木のお風呂で、ゆっくり浸かって頂いています。お好きな方は毎日入って頂いています。



9:トイレで排泄ができる援助

それぞれ入居者の方の排泄の 패턴を確認、把握し、声掛けや誘導させて頂き、不必要なオムツ、リハビリパンツ、パットの使用はせずに、トイレで排泄していただける支援をしています。トイレ使用時もプライバシーを尊重し、尊厳が守られるように努めています。

10:最期まで関わる(看取りケア)

グループホームという住み慣れた環境で、最期まで過ごして頂く為、ご家族とも相談しながら、ご家族とグループホームとで支えていけるよう努力しています。

グループホームぼだいじの対象者は、
 介護度1以上の認定を受けている方
 認知症と診断されている方
 常時の医療が必要でない方

普通の暮らし、当たり前の暮らしを送って頂く事の大切さを感じながら、入居者の方との一日一日を大切に寄り添い、助け合いながら、できるだけたくさんの方に最期まで過ごして頂くことができるように、また、ご家族やご本人にとってたくさんのいい思い出が残せるよう、これからも、努力しながら少しずつでも前進していきたいと思っています。
 見学・相談等ございましたらいつでもご連絡ください。